

かがやき



大久保小学校 学校だより No. 9

令和 5年 7月 3日

発行者 黒田 優一



平和集会（佐世保空襲の日）

6月29日は「佐世保空襲の日」です。

今から78年前の昭和20年（1945年）6月28日午後11時58分、もうすぐ6月29日になろうとする夜中に、佐世保の空に多くの爆撃機が飛んできました。空襲警報が断続して鳴り響くなか、その爆撃機からたくさんの焼夷弾が、人が住んでいる、この佐世保の街に落とされたのです。12,037戸の家が全焼し、多くの人が傷つき、1,242人の人が亡くなったのです。



戦争は、人を傷つけ、人のいのちを奪うものです。絶対にしてはいけません。でも世界に目を向けると、今もなお、争いや戦争が世界中の至る所で起こっています。なぜ戦争は起きるのでしょうか。なぜ人が人を傷つけ、人が人のいのちを奪うことが起きるのでしょうか。

戦争がない世界にするために、私たちに何ができるのでしょうか。争いがなく、平和で穏やかな生活ができるようにするために、私たちは今、何をしなければならないのでしょうか。

大久保小学校では、6月29日の1校時に平和集会を行いました。平和集会では、まず校長の話として、前述の主な内容について話をしました。次に平和教育担当の濱村教諭が、78年前にこの佐世保の街で何が起こったのか、スライドを見せながらより具体的に子どもたちに話しました。そして「赤いくつ」という佐世保空襲のお話の読み語りを職員で行いました。

子どもたちは、真剣にスライドを見て、真剣に話を聞いて、戦争の悲惨さと平和の尊さを感じながら、平和な世の中を築くために、自分に何ができるのかを考えていました。

大久保小の正面玄関の廊下には、佐世保空襲や戦争の資料の展示を行っています。その資料の一つに空襲があった街をまとめた日本地図がありますが、それを見ると全国のほとんどの都道府県で空襲があったことがわかります。

8月6日の広島原爆の日、8月9日の長崎原爆の日である「県民祈りの日」、そして8月15日の終戦の日と、平和の大切さを考える日が今後も続きます。ぜひご家庭でも、争いがなく世の中にするために私たちに今何ができるのかを、一緒に考える機会を作っていただき、戦争の悲惨さや平和の尊さについて、お話いただければと思います。

「いのちを見つめる強調月間」のご協力、ありがとうございました。

6月は「いのちを見つめる強調月間」でした。その間、「いのちを見つめる集会」や「ボランティア感謝の会」、「道徳授業公開」など、たくさんの保護者の皆様にご来校いただき、子どもたちの学びの姿を見ていただきました。また、「学校開放週間」においては、受付等に多くの保護者の皆様にご協力いただきました。本当にありがとうございました。

「いのちを見つめる強調月間」は終わりますが、いのちの教育は、年間をとおして行います。これからも本校では、子どもたちが自他のいのちを大切に、一人一人が輝けるよう、学校教育目標「秩序と活気ある子どもの育成」を目指して教育活動に取り組んでいきます。